



平成 27 年 3 月 17 日

各位

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所
公益財団法人 日本英語検定協会

*日本初、英語の 4 技能テスト結果を比較可能とする
ユニバーサルなスコア尺度
「CSE (Common Scale for English)」
現状の研究・開発状況と今後の展望についてのご報告

*3 月 14 日現在、独自調査によるところ

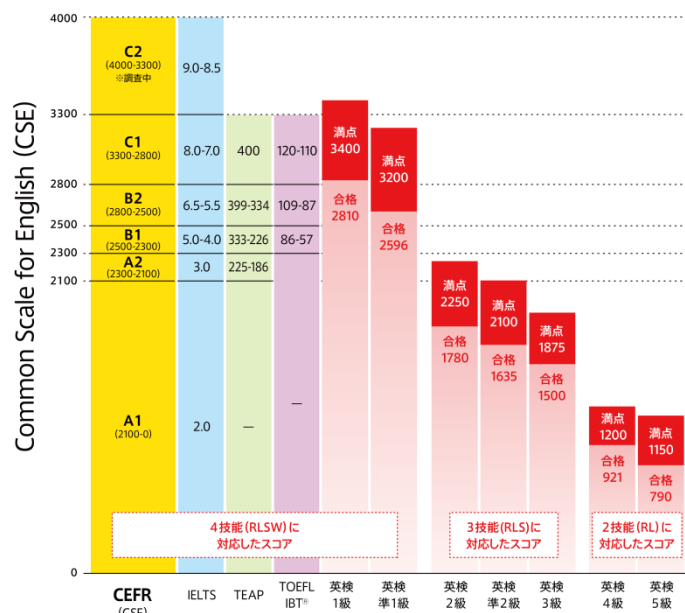
一般財団法人 日本生涯学習総合研究所（代表理事：吉川 厚、所在地：東京都港区、以下、「生涯総研」）と、公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川 孝一、所在地：東京都新宿区、以下、「英検協会」）は、2014 年 9 月 1 日に共同発表いたしました、ユニバーサルなスコア尺度「Common Scale for English」（以下、「CSE」）につきまして、現状の研究・開発の状況と今後の展望をお知らせいたします。

【CSE とは】

国際基準規格である CEFR*と関連性を持たせて開発したユニバーサルなスコア尺度です。具体的には CEFR の A1レベル(初級学習者)から C2(熟達した学習者)までの範囲を「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の 4 技能を各 1000 点満点とし、合計 0 点から 4000 点スコアに尺度化したものです。実用英語技能検定(以下、「英検」)をはじめ英検協会の各種試験(「英検 IBA」、「TEAP」、「IELTS」、「英検 Jr.」等)はもちろん、国内外の資格・検定試験のスコアも CSE で示すことを目指しています。

*CEFR とは、Common European Framework of Reference for Languages の略。語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際基準規格。欧米で幅広く導入され、6つのレベルが設定されています。

以下、Common Scale for English (CSE) のイメージ図です。



英検 2~3級は Reading・Listening・Speaking の 3 技能、4・5 級は Reading・Listening の 2 技能に対応するスコアです。

参照元：文部科学省「各試験団体のデータによる CEFR との対照表」
(2014 年 7 月 4 日「英語教育の在り方に関する有識者会議」より作成)

【現状の CSE】

CEFR と対応した新スケール「CSE」は生涯総研が英検協会から委託を受けて進められた研究を元に構築されています。また、2009 年から英検協会において、スコアによる英検受験者の英語能力表示の実現に向けて研究してまいりました。これらの研究から2015年度より英検(実用英語技能検定・英検 IBA・英検 Jr)は CSE による技能別のスコア「英検 CSE スコア」を、学習・指導用の指標として活用いただけるようにすることになりました。2015 年度にリリースする CSE は「CSE1.0」と呼び、他の英語テストと順次、関連研究を進めながら、さらに進化していく予定です。

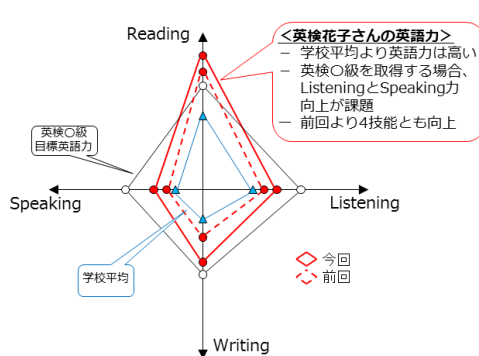
【現状の CSE の活用イメージ】

■学習者

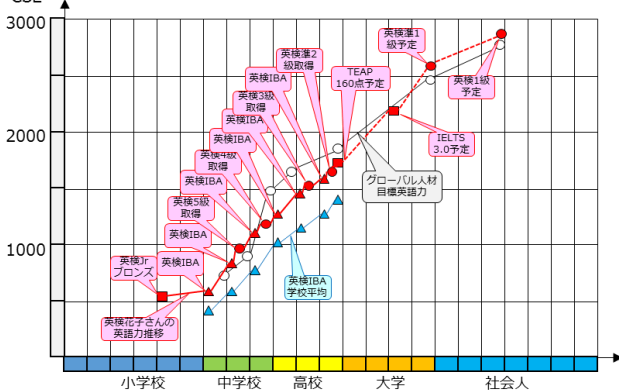
- ・ 今の自分の英語能力を技能別に把握でき、自分の弱点や学習ポイントがわかります。
- ・ 個人カルテ(ポートフォリオ)として活用することで、過去の自分のスコアと比較し、どの能力が向上したかを確認できます。

以下、学習者にとっての CSE の活用イメージです。

【英検花子さんの4技能別CSEスコア】



【英検花子さんの英語力推移と目標設定】



■学校

- ・ CSE を元にしたスコアを活用することで授業の指導方針が立てやすくなります。
- ・ 前回と今回のスコアの伸びを参考にすることで個人への学習アドバイスをする具体的な材料とすることができます。
- ・ 受験回次間の比較をすることで中長期的な授業の振り返りが可能となります。
- ・ 生徒に個々の能力アップを認識させることで学校全体として英検級等の目標にトライする際の指標として活用いただけます。

以下、学校にとっての CSE の活用イメージです。実際は各学校のご指導方針に沿った形で活用いただくことを想定しています。なお、CSE を用いた比較分析(たとえば〇〇高校と県平均との比較など)をおこなうには、比較対象間の条件が揃っていること(全校受験など)が前提になります。

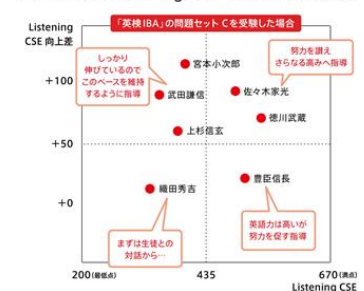
【〇〇高校1年～3年英語力向上度数の経年変化】



【〇〇高校3年A組受験級の推奨リスト】

年 組	名前	IBA・CSE	取得得級	種実級	チャレンジ級
3 A	青木英明	3000	2	—	準1
3 A	秋山博之	2900	2	—	準1
3 A	真田幸村	2800	3	2	準1
3 A	徳川太郎	2800	—	準2	2
3 A	菅川三郎	2750	3	準2	2
3 A	戸田五郎	2700	準2	—	2
3 A	四谷花子	2600	4	3	準2
3 A	山田紀子	2600	4	3	準2

【〇〇高校2年Listening力と1～2年向上度数分布】

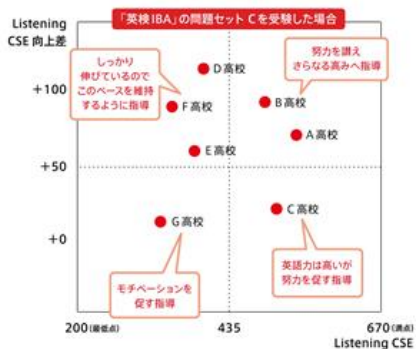


■自治体

- 各市区町村レベルから学校単位に至るまで技能別のスコアの傾向を把握し、自治体レベルで適切な指導方針が立てられます。

以下、自治体にとっての CSE の活用イメージです。実際は各学校・自治体のご指導方針に沿った形で活用いただくことを想定しています。なお、CSE を用いた比較分析(たとえば〇〇県と全国平均との比較など)をおこなうには、比較対象間の条件が揃っていること(全校受験など)が前提になります。

【〇〇高校2年Listening力と1~2年向上度数分布】



【〇〇県3年卒業時英語力の経年変化】



【今後の展望について】

今後は、CSE に対する調査・研究活動をさらに進め、IELTS や TEAP など、英検協会が実施・運営する他の4技能テストにも対応し、CSE の精度向上に取り組んでいく予定です。

大学入試におきまして、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能のバランスの良い英語力が求められ、外部の資格・検定試験の活用が本格化してまいりました。こうした現状を踏まえ、生涯総研と英検協会としましては、この大学入試のニーズに耐えうる英語の資格・検定試験の共通尺度として活用いただける「CSE2.0」の開発を目指していきます。

生涯総研と英検協会は今後も、CSE をはじめとする調査研究を通じ、日本の英語教育の発展と英語学習者の学力向上に貢献できるよう取り組んでまいります。